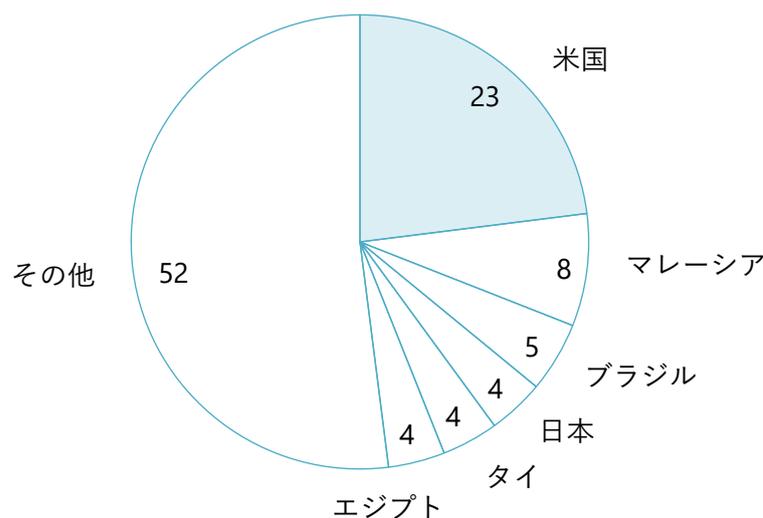


輸出市場目指し設備を急拡大

2013年3月、ダナン・ラバー（DRC）はラジアルタイヤの生産成功を発表した。これは業界における1つの転機であった。

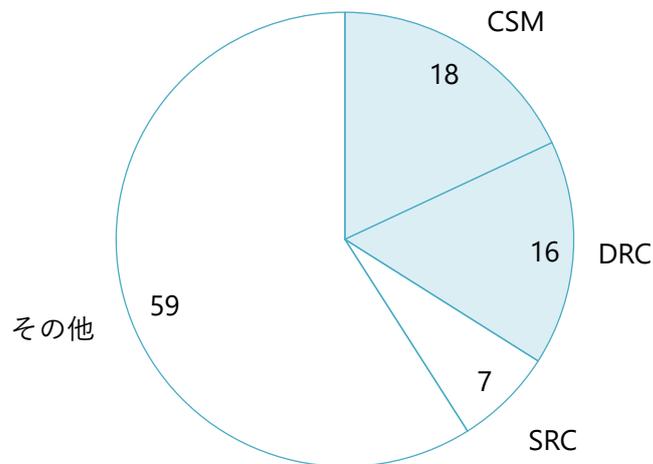
ベトナムのタイヤ市場は約8億ドル、世界市場の0.34%と規模は小さいが、豊富な天然ゴム（世界5位）、安価な労働力などを優位点に今後の成長が見込まれている。2012年にベトナムは137か国に対して、タイヤ2,540万個、3.4億ドルを輸出し、3年間連続の輸出超過となった。一方、同年400万個、2.7億ドルをタイ（44%）、日本（17%）、中国（12%）から輸入している。輸出量が輸入量に比べて6倍あるにもかかわらず、金額では25%しか高くない。国内企業が弱い乗用車用ラジアルタイヤと軽トラック用タイヤが輸入の多くを占め、より高価なためである。

2012年の輸出市場（100%=3.4億ドル）



国内企業と外資では注力分野が全く異なる。国内企業は国内市場向けの安価なタイヤに注力している。市場の内訳はバイク42%、大型車31%、普通車18%、自転車9%などである。外資は海外で広く使用されているラジアルタイヤに注力している。この結果、国内大手3社（CSM、DRC、SRC）は輸出市場の12.8%に留まり、クムホ（43%）、チャイタン（12%）、ケンボ（1%）、横浜（4%）など、外資が多くを占める。ラジアルタイヤは徐々に世界のタイヤ市場を塗り替えてきており、北米では90%以上、発展途上国、アジア太平洋地域でも60%に達している。ベトナムでは15%に留まっているが、今後予想される高速道路の増加などを考えると、ラジアルタイヤの増加は避けられない。現在この分野はクムホが年315万個、横浜が年40万個の生産能力を持つが、国内企業で唯一CSMが毎年30万個生産している。

2012年国内市場シェア（100%=8億ドル）



外資、国内企業いずれも今後生産能力を高める計画だ。クムホベトナムは数年以内に年600万本ものラジアルタイヤを生産可能にするため、ビンズオン工場の生産能力を倍増する。ブリジストンも2014年頃に年650万個のラジアルタイヤ生産を可能目標として、ハイフォンに工場を建設している。CSMも2015年までに年60万個まで規模拡大の予定である。DRCでは2013年に初期段階として年30万個のラジアルタイヤを生産可能な工場を稼動する予定である。国内自動車市場の発展が遅いことが大きな課題だが輸出における成長は続くだろう。国内企業が世界市場の中で一定のポジションを得られるかどうか注目される。